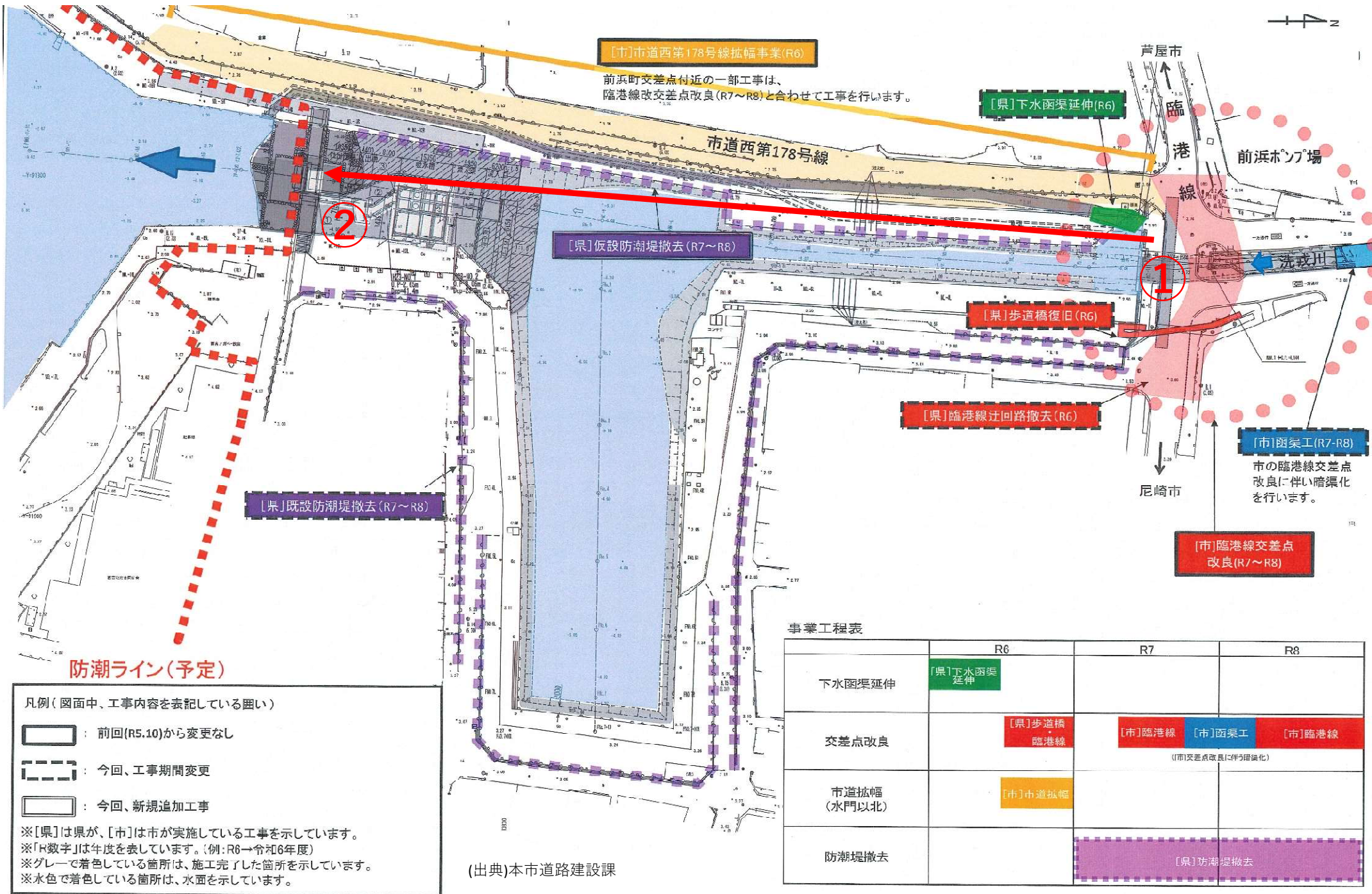


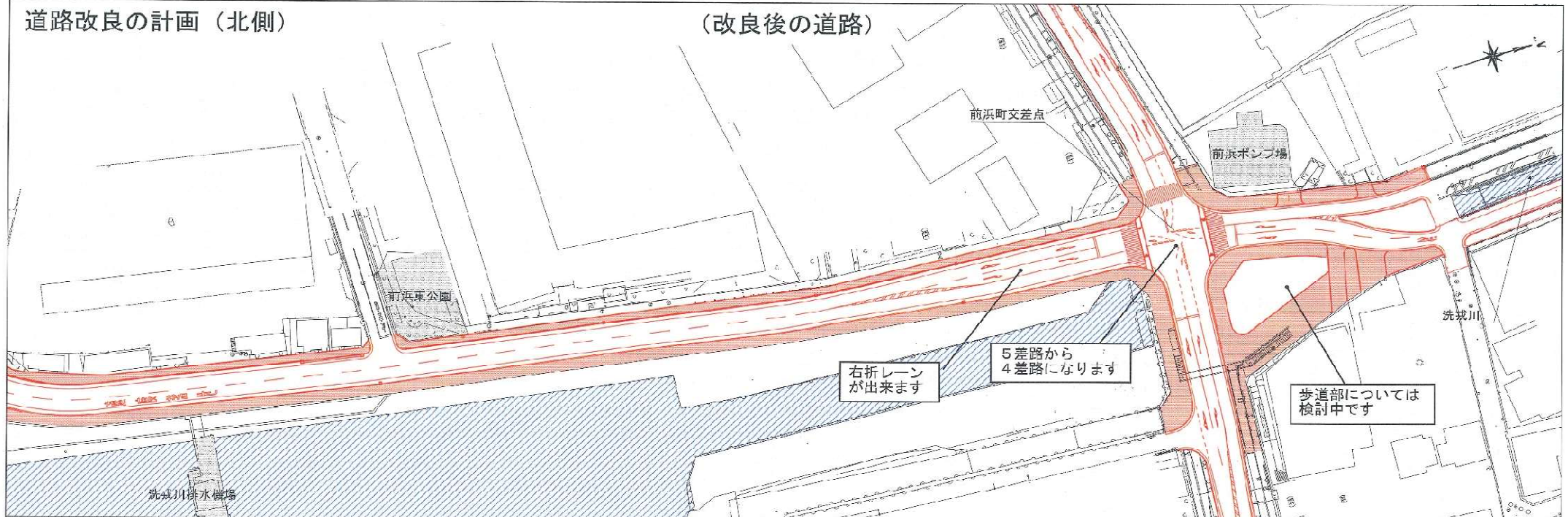
洗戎川水系図

(出典)兵庫県 洗戎川水系河川整備計画

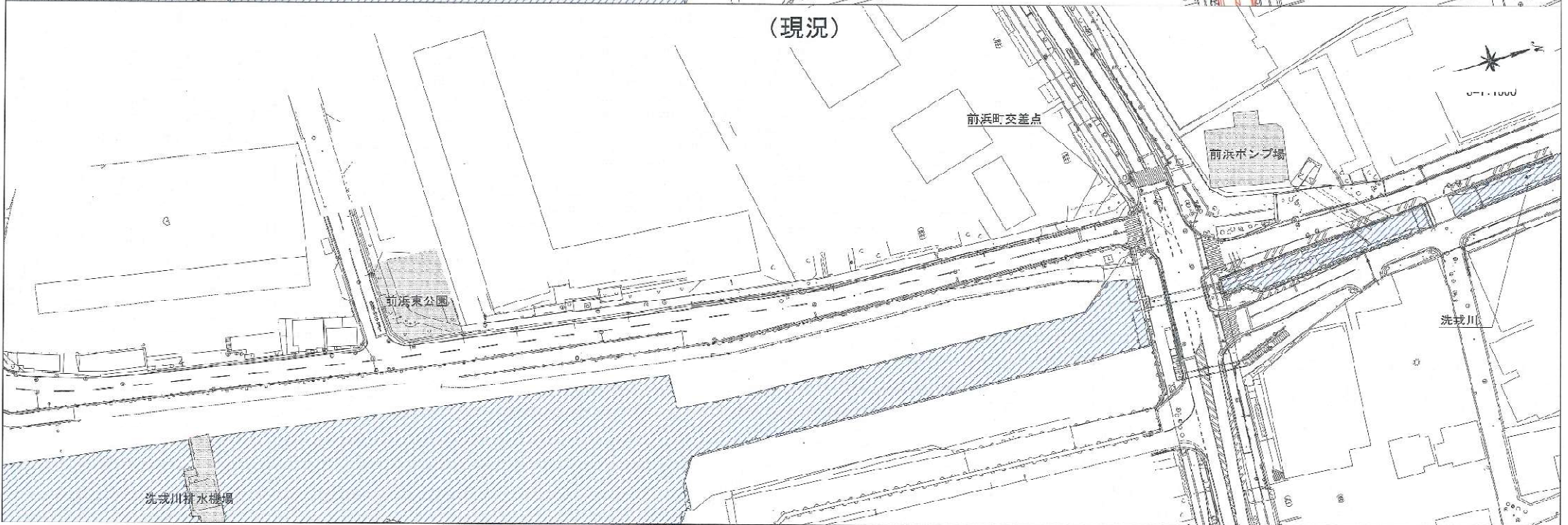


道路改良の計画（北側）

（改良後の道路）



（現況）



■ 「雨庭」について

「雨庭」は、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間です。

アスファルトなどに覆われた都市空間では、地上に降った雨はほとんど地中に浸み込むことなく排水されています。雨庭は、道路上に溢れる雨水を一時的に溜めることで氾濫を抑制し、地下水を涵養することで健全な水循環に貢献します。また、このような雨水流出抑制の効果に加え、修景・緑化、水質浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果も期待されることから、近年広まりつつある「グリーンインフラ※」の一つとして注目されています。

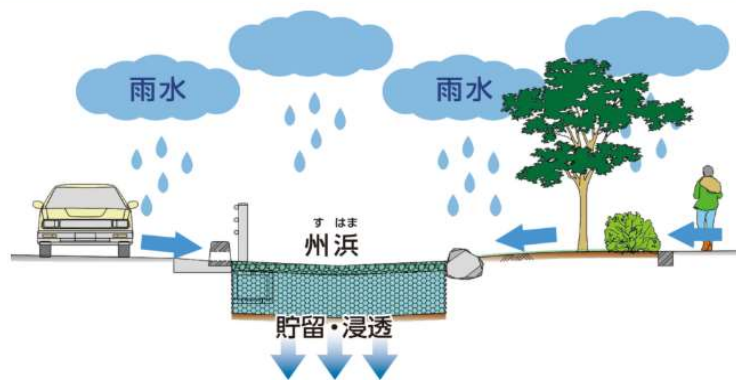
※グリーンインフラとは

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力あるまちづくりを進めようという考え方



道路の縁石の一部を「穴あき」のブロックに据え替えることで、歩道上や直接雨庭内に降った雨水だけでなく車道上に降った雨水も雨庭の中に取り込みます。

▶ 雨庭のイメージ



雨水を地中に浸透させやすくするため、植栽の周辺に、砂利などを敷き詰めた「州浜」を設けています。砂利などは、深いところで約50cmの厚みがあり、砂利の隙間に雨水を一時的に貯留しておくことができます。また、四季を感じられるよう、様々な植栽も植えられています。

▶ 雨庭の雨水流出抑制機能

特徴1：集水

水が浸透しない舗装面などに降った雨水を集める。

特徴2：貯留

集めた水を一時的に貯める浅い窪地などを備えている。

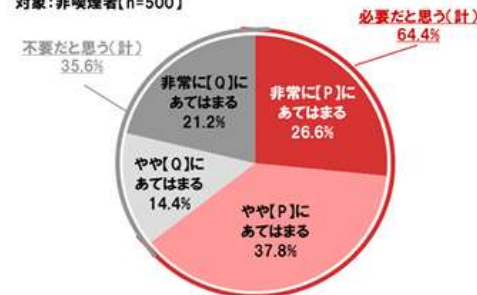
特徴3：浸透

貯めた水をゆっくりと地中に浸透させる。

◆ 多くの非喫煙者は、喫煙場所が必要であると考えており、また、屋外喫煙場所整備にたばこ税を活用することについても肯定的

- ① 非喫煙者（500名）に、喫煙スペースは必要だと思うか、不要だと思うか聞いたところ、
『必要だと思う（計）』は64.4%、『不要だと思う（計）』は35.6%

◆喫煙スペースの必要性に関する意識【単一回答形式】
喫煙スペースは…『P』必要だと思う【0】不要だと思う
対象：非喫煙者（n=500）



◆喫煙スペースが必要だと思う理由【複数回答形式】
対象：非喫煙者で、喫煙スペースが必要だと思う人



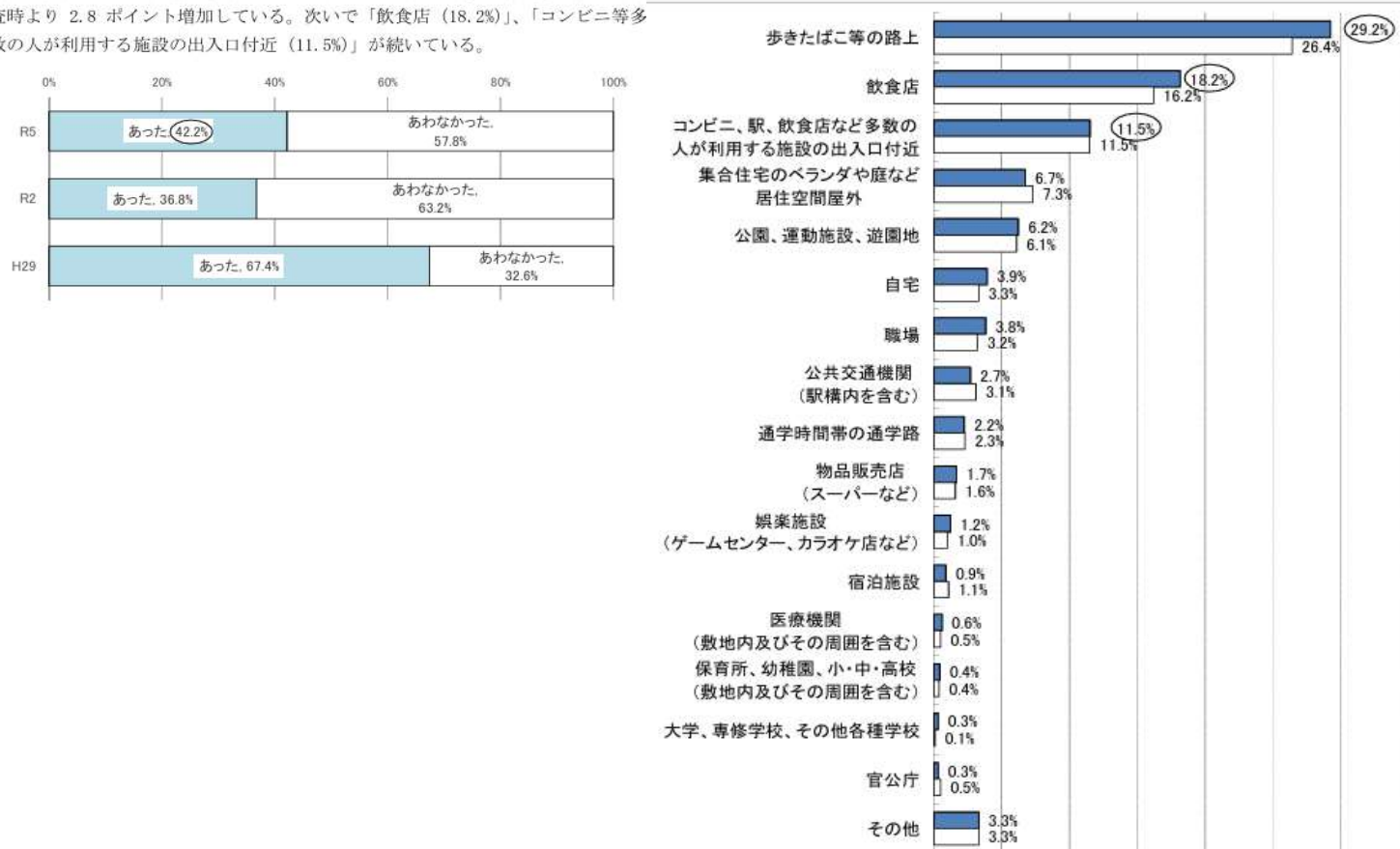
◆喫煙スペースが不要だと思う理由【複数回答形式】
対象：非喫煙者で、喫煙スペースが不要だと思う人



（出典）令和3年3月30日ネットエイジア社「喫煙・喫煙スペースに関する意識・実態調査2021」
(http://www.mobile-research.jp/investigation/research_date_210330.html)

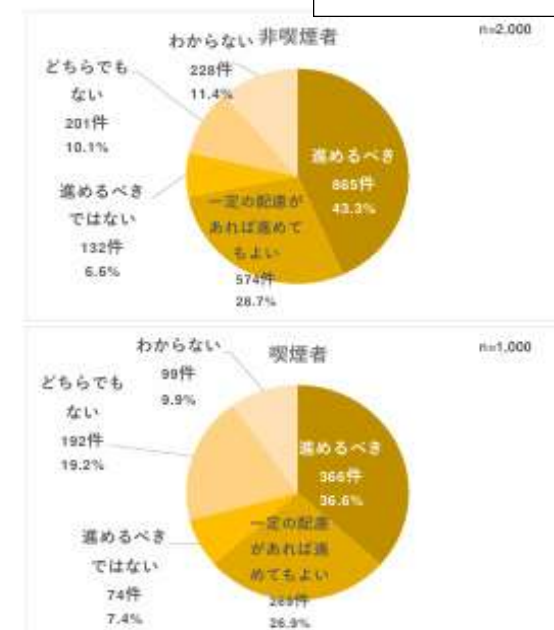
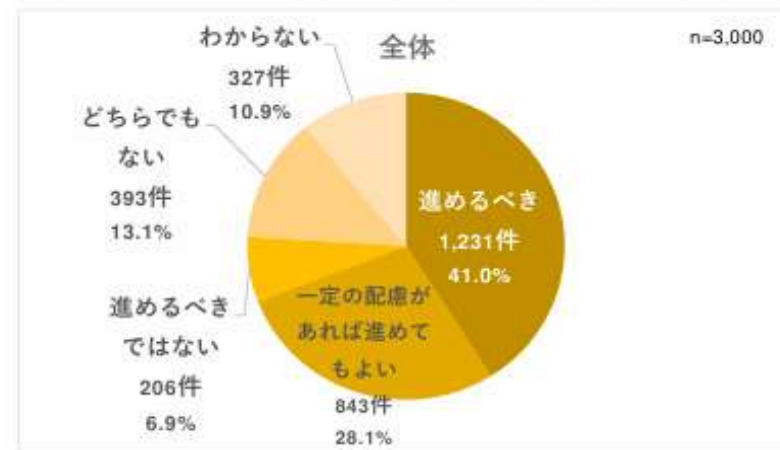
受動喫煙に「あった」人は前回調査時と比較すると減少しているものの、前回調査時からは5.4ポイント増加し、42.2%となっている。

受動喫煙にあった場所は、「歩きタバコの路上（29.2%）」が最も多く、前回調査時より2.8ポイント増加している。次いで「飲食店（18.2%）」、「コンビニ等多数の人が利用する施設の出入口付近（11.5%）」が続いている。



（出典）兵庫県 県民意識調査データ

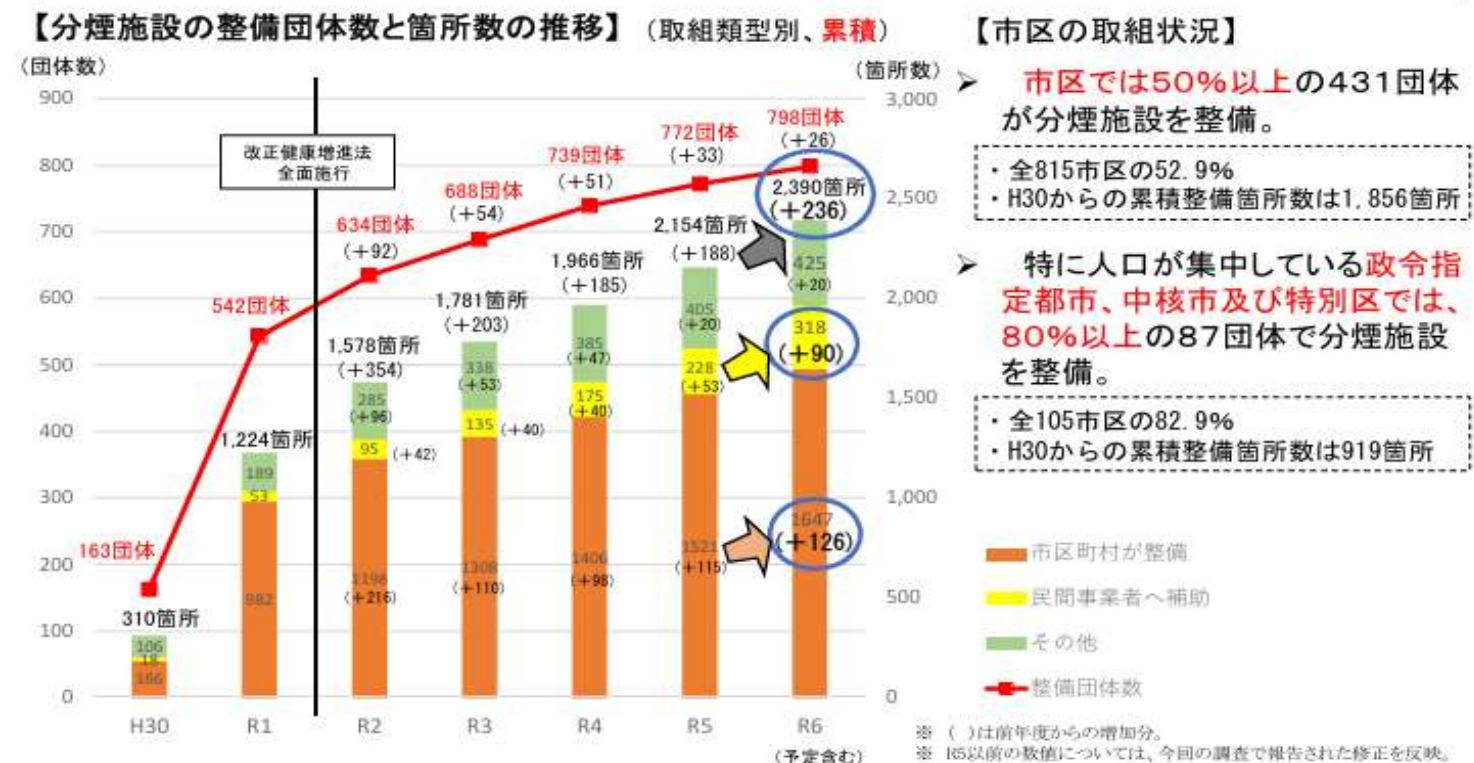
屋外に分煙所の設置を進めることについて、あなたはどう思いますか。（一つだけ回答）



・屋外分煙所の設置の推進に対して、「進めるべき」「一定の配慮があれば進めてもよい」と回答した者の合計は、全体で69.1%、非喫煙者全体で72.0%である。
・喫煙者で、「進めるべき」「一定の配慮があれば進めてもよい」と回答した者の合計は、全体では63.5%で、70代以上の割合が79.1%で最も高い一方で、50代が57.5%と21.6ポイント差があり、年代で意向に差が見られる。

（出典）大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課の調査データ

- 平成30年度から令和6年度において、**全市区町村の5割近い798団体が分煙施設を整備。**
- 令和6年度の整備箇所総数（+236箇所）及び市区町村による整備箇所数（+126箇所）は、**令和3年度以降で最多。民間事業者への補助による整備箇所数（+90箇所）は調査期間中最多。**



（出典）総務省自治税務局市町村税課 分煙施設整備の事例集

京都市

- 過料徴収区域を指定した以上は喫煙場所も整備していかなければならないということで、平成20年代に入ってから設置を進めてきました（省略）喫煙する人、されない人が共に住みよい、社会活動しやすい環境整備に努めています
- ✓ 過料処分件数が最も多かった平成24年度は、年間の処分件数が6,794件
- ✓ 令和元年は年間825件となっており、ピーク時と比べ87～88%の大幅減
- ✓ 過料件数が激減した背景には、京都市の啓発活動と18カ所の公設喫煙場所整備がある

（出典）令和3年11月23日及び25日付日刊ゲンダイ <https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/lifex/297769> / <https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/lifex/297830>



（出典）京都市HP <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000027498.html>

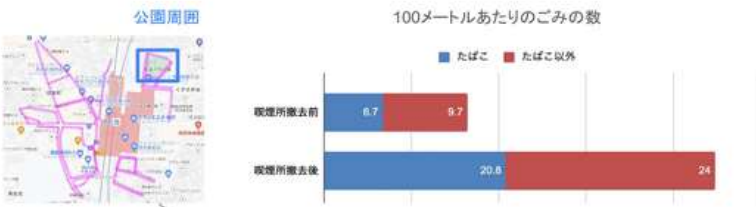


株式会社ピリカによる調査

- 同社が提供するごみ分布調査サービス「タカノメ」を活用し、東京農業大学教授の監修の下、喫煙所の撤去が周辺に与える影響を調査（埼玉県所沢市_所沢駅前喫煙所）
- ✓ 喫煙所撤去後、吸殻のポイ捨ては約2倍に増加、更に広範囲に広がることが確認



- ✓ 特に、近隣の公園における吸殻のポイ捨ては約3.1倍に増加（たばこ以外のごみの増加も確認）



（出典）株式会社ピリカHP <https://corp.pirika.org/service/takanome/>

